

2016年12月

現代社会における法と倫理観

情報学部 経営情報学科 坪井ゼミ
B3P21014 伊藤雄哉

【卒業論文概要】

今日、先進国では人権や自己決定権が尊重される社会になっているが、未だに日本において議論されている法の裁きによる死（死刑）についての議論が続いている。死刑制度については被害者および被害者の遺族、死刑制度が廃止された国の凶悪犯罪発生率を廃止以前と廃止後のデータ等を利用し犯罪の抑止力になっていると言えるかといった面から考察する。またそれらを海外の事例として EU 加盟国などの死刑廃止を前提としている国家やアメリカのように死刑制度は存在している国における死刑についての考え方や死刑制度の廃止に至るまでの根拠や理論を参考にしながら倫理観などの面から考察し、理想の社会とはいったい何か、法の裁きというものに求められる倫理観はなにかといったものを主題に考察する。最終的にそういった法と倫理観についての考察から導かれた理想的な社会の在り方、法の支配を前提とする現代の日本社会が持つべき倫理観とはどういったものであるべきなのか、現代の社会に死刑制度というものが必要であるのか歴史や犯罪のデータ、倫理観の変遷から考察する。